

KENGURO

季刊報

vol.22

INDEX

Focus on!!

モンゴル・台湾・タイとさくらサイエンス交流を実施!
 タイ・キングモンクット工科大学に5ヶ月間交換留学!
 モンゴル国立大学 80周年記念式典に参加!

Focus on!!

モンゴル・台湾・タイとさくらサイエンス交流を実施!!

国立研究開発法人・科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプランの支援の下、研グロでは2014年度から主にアジア学生の招聘と交流を続けてきました。新型コロナウイルス感染拡大後はオンラインでの実施でしたが、大学生の海外派遣・受入が国内で徐々に解禁されていく中、今回、約3年ぶりにアジア諸国から大学生を招聘することができました。2022年9月4日から9月10日の日程で、モンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学、モンゴル人文大学、台湾・高雄師範大学、タイ・ナレスアン大学、タイ・シラパコーン大学から計11名の大学生・院生を岩手大学に招聘しましたのでご紹介します。

3年ぶりに対面での学生間交流が実現

アジア学生たちが岩手大学に到着後、まずオープニングセッションを開催しました。八代学部長の挨拶の後、岩手大学の紹介ビデオを視聴しました。ビデオは、2020年度にさくらサイエンスオンライン交流のときに制作されたものです。次に、本学大学院生（博士課程学生2名）による、研究発表を行いました。最後に、各大学の学生が、“MyCountry My University”と題して、各国の文化・食事・生活と大学の紹介を行いました。午後からは、デザイン・メディア工学コースの田中教授と今野教授、電気電子通信コースの小林教授の3グループに分かれて、各研究室で活動しました。以下に各グループでの活動をご紹介します。

Designed by Freepik

①グループA（田中研究室）：タイ、モンゴル、日本の三ヶ国における伝統的なお土産のパッケージの特性を基軸にディスカッションを展開しました。盛岡手づくり村を訪問し、工業製品や食品等の伝統的なプロダクトの見学、盛岡市内の商業施設で岩手県及びその周辺各地域の様々な特産品について学びました。その後、三ヶ国を比較し、伝統的な食品のパッケージの特徴を芸術工学的な視点で相互比較し議論しました。

②グループB（今野研究室）：3Dプリンタを活用したモデルを共同制作しました。制作対象物を議論した後、3D CGソフトでモデリングし、何度も試作を繰り返しながら、モデルを完成させ3Dプリンタで印刷しました。3Dプリンタでの出力は時間がかかるため、適切な時間でプリントするためどうしたらいいかなど、議論を交わしました。

③グループC（小林研究室）：心臓の活動を測定する電子回路制作を通して、3次元計測装置を用いた生体センシング技術について学びました。参加学生は電子回路制作は初めてであり、基本的な原理から学習しました。特に心臓の活動を電気信号として計るための生体メカニズムに関しても学習しました。また、研究室活動中、歴史博物館や美術館を訪問し、岩手の歴史や文化にも触れました。

本学での滞在最終日、各研究室での活動について成果発表会を行いました。修了証書授与式後、招聘学生は東京に向かい、成田空港から元気に帰国されました。

グループAの皆さんが盛岡手づくり村を訪問したときの様子（写真右）。岩手県の伝統的な団子作りなどの体験を通して、日本の地域の歴史を理解してもらいました。



グループBで作成モデルを議論している様子（写真左）。文化の違う学生さんたちが、意思疎通を図るのに多々苦労があったようです。

グループCでの活動の様子（写真右）。自ら作成した電子回路を用いて自分の心臓の活動を測り、新たな発見ができたようです。



最終日の成果発表会后、修了証を手に皆さんで記念撮影（写真上）

タイ・キングモンクット工科大学に5ヶ月間交換留学!!

JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）の支援^{*1}の下、本学学生が2022年8～12月の約5ヶ月間、タイ国キングモンクット工科大学トブリ校 (KMUTT) に交換留学しました。KMUTTは、現同校講師のパイリントラさん(1988年農学部博士課程修了)を通して約10年前に本格的に交流が始まった大学で、本学電気電子通信コースの大坊准教授がコーディネーターとなって、これまでインターンシップ受け入れ9名、送り出し10名、交換留学送り出し2名の学生交流を行ってきました。コロナ禍でもKMUTTが主催する国際卒業研究発表会で8名の本学学生がリモート発表しています。今回、同校に交換留学した都市計画学研究室(南正昭教授)の澤田さんの声をご紹介します。

地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース M1 澤田聖吾さん

タイでの留学を通し、派遣大学であるKMUTTの指導教員の勧めから自動車やバイク、バスなどにより衰退しているバンコクのCanalを復活するプロジェクトに参加させていただきました。10人以上のプロジェクトメンバーとのミーティングを行い、大学周辺のCanalの歴史や現状を把握しました。また、留学中のクラスメンバーとフィールドスタディとして現地を訪れ、現地の住民にヒアリングしたことで現状の課題をさらに理解しました。実際にミーティングには指導教員の他に対象地域でビジネスをしているオーナーやカヌーなどのCanalでのアクティビティを提供する住民なども参加し、地域の発展に取り組んでいる様子が見られました。今後はCanal周辺の公衆トイレなどのアメニティや都市部へのアクセスを向上させ、ボートを使ったウォーターネットワークの改善を図るといった取り組みを進めています。実際に現地で調査してみると対象地域のCanal周辺には居住エリアになっており、洗濯や子供の遊び場、移動手段などとして多くの居住者がCanalを生活の一部として使われていました。しかし、廃棄物の処理の甘さや水質が良好ではないなど環境面で問題があることが見られ、Canalの改善の重要性を強く感じました。



Canal周辺の居住エリアの様子(写真上)



ミーティングの様子(写真上)。右が澤田さん。

モンゴル国立大学80周年記念式典に参加!!

2022年10月3日から10月10日の間、デザイン・メディア工学コースの今野教授、田中教授、松山准教授の3名が藪副学長・本学職員とともに、モンゴル国立大学(NUM)80周年記念式典およびモンゴル・日本留学フェアに参加しました。大学間協定校であるモンゴル国立大学は、本学理工学部が活発に学術・学生交流を展開している大学の1つで^{*2}、本学学位取得者が同大学に9名も教員として在籍しています。

NUM80周年記念イベントは首都ウランバートルで10月4～6日の3日間行われました。2日目の国会議事堂での記念式典では、NUM学長や海外協定校のスピーチに続いて、NUMの創設とこれまでの歴史と変化をまとめた動画が放映されました。また、現在進行中の大型プロジェクトの紹介やオーケストラ演奏等が披露されました。式典後は、藪副学長と外国人留学生同窓会との懇談会に参加し交流と親睦を図りました。また、イベント期間中には、本学修生でNUM応用科学学院教授のエンフバヤル先生の研究室およびメタバースシステム開発を行うベンチャー会社(従業員23名)を訪問し、研究協力強化を図りました。

日本留学フェアは、10月7～8日の2日間、JICA・モンゴル・日本人材開発センターにて開催されました。約200名の学生が本学ブースを訪れました。中でも、ソフトウェア、コンピューターグラフィックス、AIに関心がある学生が多かったようです。今後の留学生増を期待したいですね。



NUM80周年記念式典が行われた国会議事堂前にて(写真上)。モンゴル帝国を築いたチンギスハーンの巨大な銅像が見えますね。



外国人留学生同窓生との懇談会にて(写真上)。9名の同窓生や学生が参加しました。



日本留学フェアの様子(写真上)。国際課職員と共に、本学教員も説明にあたりました。

*1: 大学院博士課程学生及び博士課程進学希望者のための海外研究インターンシップによる若手グローバル研究者育成プログラム(プログラムNo.:HTB2210200202)

*2: モンゴル国と理工学部の交流については、季刊報 vol.8 をご覧ください

編集後記

新年を迎え、心機一転な気分の中、いかがお過ごしでしょうか。今回は3年ぶりに行われた「さくらサイエンス」、キングモンクット大への交換留学、そしてモンゴル国立大の記念式典への参加について紹介しました。有意義な体験となり、更には人生の糧となったのではないのでしょうか。未だ未曾有のコロナが続く中、少しずつですが、以前のような大学間交流ができるようになってきました。これを機に学生の皆さまの更なる飛躍と成功を祈るばかりです。

編集局：

研究高度化・グローバル化特別対策室

Email: kenguro@iwate-u.ac.jp

TEL: 019-621-6405

http://www.kenguro.iwate-u.ac.jp/



研グロHP